

国立天文台客員教授等報告書

受入教員 プロジェクト名： チリ観測所 氏名： 阪本 成一
客員氏名： 小麥 真也
称号： 客員教授 客員准教授 客員研究員（○をつける）
期間： 平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日

I. 以下の項目について、客員教授等本人が記入してください。

[1] 主な活動と成果（当初の計画についても記入すること）

（共同研究）

・愛媛大学、ASIAA のグループと遠方宇宙にあるダストに覆われた高光度星形成銀河 DOGs の CO 観測に関して共同研究を開始した。Cycle 4 で得られた ALMA データの解析や解釈を担当し、愛媛大学および九州大学で議論および Cycle 5 の観測提案検討会を実施、実際にこれまでの成果に基づいた提案を提出した。

（教育）

・チリ観測所所属学生の論文に co-I として参加し、観測データの解釈および議論で貢献した (Michiyama et al., 2016)。

・ASTE に搭載の新カメラに関し、本学応用物理学科数名を SV 活動の観点から参加させた。実際の SV 観測は行われなかったが、システムの理解や国際協力、研究の現場について理解することで学生教育に資した。

（その他）

・所属大学の学部生を対象に国立天文台の見学会を開催した。アルマを中心とした成果についてチリ観測所職員が講演を行い、チリ観測所の学生に台内見学の支援などの協力をいただいた。

[2] 本制度に対する意見、要望など

記述すべきことなし。

[3] 国立天文台職員や大学院生と共同して行った研究等の学会発表、学術論文、解説等

【学術論文】

- 1) Ueda, J., et al. (9 authors, Komugi, S., as 9th co-I), “ALMA observations of the dense and shocked gas in the nuclear region of NGC4038” , 2017, PASJ, 69, 6
- 2) Takekoshi, T., et al. (21 authors, Komugi, S. as 3rd co-I), “The 1.1mm continuum survey of the Small Magellanic Cloud: physical properties and evolution of the dust-selected clouds” , 2017, ApJ, 835, 55
- 3) Michiyama, T., et al. (13 authors, Komugi, S. as 12th co-I), “Investigating the relation between CO(3-2) and far-infrared luminosities for nearby merging galaxies using ASTE” , 2016, PASJ, 68, 96

【学会発表】

- 4) Komugi, S., et al. (10 authors, including Miura, R. E., Kaneko, H.), “Development of the Multi-Parameter Star formation Law: II” , 2017, ASJ spring annual meeting, R17a

Ⅱ．以下の項目について、受入教員が記入してください。

[4] 本制度に対する意見、要望など

特になし。